

# 岐阜県立東濃フロンティア高等学校

校長 原 恵市

学校住所 土岐市泉町河合1127-8 電話 0572-55-4151

- 1 会議の名称 岐阜県立東濃フロンティア高等学校 学校運営協議会（第1回）
- 2 会議の構成
- |       |       |  |
|-------|-------|--|
| 会 長   | 山田 利彦 | 土岐市泉西公民館館長                               |
| 副 会 長 | 松本 律子 | 土岐市保護区保護司会                               |
| 委 員   | 成瀬 直幸 | 東濃鉄道多治見営業所助役                             |
|       | 宮崎 清一 | 泉町河合区長                                   |
|       | 坂本 幾子 | 東濃フロンティア高等学校育友会本部役員                      |
|       | 村野 政章 | NPO法人Earth as Mother 本部副理事（兼「いくるば」事業統括長） |
|       | 長江恵理子 | 岐阜県立はなの木苑東濃圏域発達障害地域支援マネージャー（敬称略）         |
- 学校側
- |       |        |
|-------|--------|
| 原 恵市  | 校 長    |
| 三輪田久信 | 副校長    |
| 岩島 章雄 | 教 頭    |
| 原 美代  | 事務部長   |
| 松本 義一 | 教務主任   |
| 杉本 知宏 | 生徒指導主事 |
| 松浦 隆秋 | 進路指導主事 |
- 3 会議の目的 学校運営協議会委員による学校運営に係る事項の基本方針承認のもと、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むとともに、相互に連携、協働することによって学校運営を改善する。
- 4 会議の開催 令和3年5月25日（月） 13:30～15:00 本校会議室  
学校運営協議会委員7名と学校職員7名が出席
- 5 会議の概要
- (1) 委員の紹介及び挨拶
  - (2) 学校概要の紹介、学校運営の方針および実践内容説明
  - (3) 「三つの方針（スクールポリシー）」の策定に係る説明
  - (4) 授業参観（第6限）
  - (5) 教育懇談（意見交換等）

## <学校より（挨拶）>

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

昨年度までの学校評議員会から、今年度より「学校運営協議会」と名称が変わりました。

令和4年度より新学習指導要領の順次実施に伴い、文部科学省より特色・魅力ある教育を実現するために、全ての高等学校においてスクール・ポリシーを策定することとなりました。その策定にあたっては、保護者、地域住民、産業界、関係団体等が参画して策定するとの通達を受け、学校評議員から段階を上げた「学校運営協議会」により、その策定と学校運営や教育活動への意見や助言をいただきながら、魅力ある東濃フロンティア高校の実現を進めていくこととなりました。

これからは、地域に開かれた学校、地域と共に育つ東濃フロンティア高校として、学校の情報も発信しながら、生徒は勿論職員も明るく生き生きと生活でき、活気ある学校づくりにお力をいただければ幸いです。

具体的には、地域イベントや施設等での地域に根ざした活動の紹介をしていただき、ボランティアを通して自己肯定感を高める手助けや、社会で必要な人材育成に関わるご意見、校則を含めた規則に関わるご意見、さらには、多様な生徒の支援に関わる助言など、きりがありませんが様々なご意見を頂けたらと思っています。

メンバーとしては、従来の学校評議員のほかに、新たにNPO法人 Earth as Mother の本部理事 村野政章様、岐阜県立はなの木苑東濃圏域発達障害地域支援マネージャー 長江恵理子様をお迎えし、卒業後の生活支援や多様な生徒への支援にお力をいただけることになりました。

また、本協議会の会長に泉西公民館館長 山田利彦様、副会長に土岐市保護司会 松本律子様をお願いいたしました。

本日は、第1回目ということで、学校運営の説明や授業参観もあり、時間に追われることもあろうかと思いますが、よろしくお願いたします。

## <学校概要の紹介及び学校運営の方針と実践内容の説明>

- ① 学校概要の紹介 (教頭)
  - ・三部制、単位制、少人数制等の本校の主な特色の説明。
- ② マニフェストの説明 (教頭)
  - ・学校教育目標及び今年度の具体的重点目標についての説明。
- ③ 学校運営の重点の説明
  - 1 教科指導の重点 (教務主任)
    - ・少人数制の細やかな学習指導を通して、基礎基本の学び直しを重視した授業を展開する。
    - ・各教室でタブレット、電子黒板機能付きプロジェクター等のICT機器を活用して、「わかる授業」づくりを心掛ける。
  - 2 生徒指導の重点 (生徒指導主事)
    - ・生徒にとって「安心して安全に過ごせる学校」となるための環境づくりを第一に指導する。
    - ・生徒会を中心にボランティア活動、地域社会と関わる機会をつくる活動を進める。
  - 3 進路指導の重点 (進路指導主事)
    - ・CT(チャレンジタイム)で系統的なキャリア教育を行う。
    - ・一人ひとりの生徒の進路希望実現のための「オーダーメイドの進路指導」を行う。特別支援を要する生徒について、早期に対応する。
- ④ 「三つの方針(スクールポリシー)」の策定 (副校長)
  - ・「三つの方針」(育てたい生徒像(GP)、生徒をどう育てるか(CP)、どんな生徒を待っているか(AP))策定までの流れについて説明。

## <授業参観>

第6限の授業を参観

参観授業	3年次	世界史B、日本史B、生活と福祉
	2年次	国語総合、化学、情報処理
	1年次	コミュニケーション英語I

## <意見交換>

- 意見1：学校経営計画(高等学校版マニフェスト)を踏まえて、各分掌の実践が計画されていることがよくわかった。また「学びなおし」、「基礎・基本の定着」、「少人数教育」、「生徒一人ひとりに合った進路指導」等、本校の教育の方向がキーワードを用いてはつきりと示されていた。
- 意見2：教育活動に一貫性を持たせるために、三つの方針を明確に示すことはとても大切なことである。三つの方針により、今、東濃フロンティア高校が地域の学校として期待されている役割を整理することには意味がある。
- 意見3：私が学生であった頃は、全ての生徒が背筋を伸ばして先生の目を見て授業を聞くということが授業の姿であったが、今日参観した授業では、多くの生徒が机上のタブレットを使用しながら視線を下に向けた授業が多かった。授業の形が大きく変わりつつあると感じた。また、タブレットを操作する際に姿勢の悪い生徒も見られたので注意が必要である。
- 意見4：多くの授業において、プロジェクターを使用したわかりやすい授業が行われていた。また、生徒の中には、タブレットの文字を拡大するなど工夫をしている生徒が見られた。個々に対応した学習が進んでいると感じた。
- 意見5：タブレットは、休校時に自宅において学習する際に使用するものであると思っていたので、教室において授業中にタブレットを使用していることに驚いた。授業時にタブレットを使用することで、板書を写す時間等が減り考える時間が増えると考えていいか。  
昨年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一斉休校により、学力の低下、生活習慣の乱れ、就職に対する不安等が心配されたが、実際はどうであったか。  
→タブレット等のICT機器を使用することで、教材中の重要箇所を的確に示し、拡大するなどして強調することで学習効果を高めることができるようになった。また、教材の提示が容易となった。今後も有効活用のために研究を進めていく。  
→昨年度の休校中には自宅学習を支援する手立てを講じた。また、生活習慣の乱れは当初心配し

たほどではなかった。企業からの求人も例年並みにいただき、希望の就職先に進む生徒が多かった。進学者についても、前年度と同様の進学実績であった。

意見6：学校におけるICT機器の導入を積極的に評価している。私の子供は発達障害を有しているが、生徒の個性は多様であり、得意なことと苦手なことがある。タブレットは個々に対応した学習を進めることができるので、導入により学習が容易になったと感じている生徒も少なくないと思われる。

意見7：高校在学中にICTを活用するスキルを身につけることは大切である。社会に出るとほとんどの職場ではパソコンに向かう作業を避けて通ることができない。今日の授業参観でも普通教室におけるタブレットの使用、また、情報処理の授業におけるパソコンの学習を見て、こうした必要なスキルを生徒が確実に身に付けつつあると感じた。

少人数授業であると教師と生徒との深い心のつながりができるのではないかと思う。自分の気持ちを素直に言い合える関係が生徒の成長を促すと思う。

高校を中途退学した場合であっても、地域とのつながりがあれば地域の企業への就職につなげることは可能である。高校在学中に地域とのつながりを学び育む学習を推進してほしい。

意見8：清掃が行き届いており、美しい校舎である。掲示物もきちんと整った状態である。生徒の中にきれいなもの、整ったものを維持しなければならないという意識が根付いていると感じた。

授業においては、自分本位な行動をする生徒は見られなかった。少人数だからこそ、自分は教師から見られているという意識をもっているのではないか。集団の一人として教師から指示を受ける場合は、指示を聞き流してしまうことあるが、少人数クラスで教師が生徒一人一人に話しかける授業であるために生徒はしっかりと耳を傾けて聞くことができていると感じた。

タブレット等のICTの活用により、重要事項を記憶に残りやすくすることができる。機器の使用による授業の支援と、少人数指導による勉強しようとする動機付けの支援の両方を大切にしてほしい。

意見9：従来の黒板を使用する授業では、板書の際に生徒に背を向けていたが、電子黒板の活用により教師が生徒と対面で生徒の様子を見ながら授業を進めることができていた。

生徒はタブレットやPCのキーボードの操作をスムーズに行っていた。こうしたスキルは高校時代にしっかりと身に付けてほしい。

タブレットを使用することで個に応じた学習を進めることができるが、必要に応じてペア学習、グループ学習を取り入れることで、授業の理解を一層深め、コミュニケーション能力を高める授業づくりをしてほしい。

三年生の日本史の授業では、少人数である利点を生かし、教師と生徒が率直な対話を繰り返しながら授業を進めていた。教師と生徒の信頼感が感じられるものであった。

### <学校より（謝辞）>

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。委員それぞれの立場から生徒のために何ができるのか、生徒のために本校がどのように発展していけばいいのか等について貴重な意見をいただきました。第2回はスクールポリシーおよび、学校評価並びに校則についての意見交換を予定しています。

今年度、本校は地域とのつながりを一層深めたいと考えています。そのアイデアがあれば遠慮なく提案していただきたいと思います。